

市内史跡探訪に参加して（浜脇界限）

平成二十九年八月二十七日

藤内 宣幸

1 はじめに

六月頃、友人と趣味の話をしていたら「亀川の歴史」という冊子を貸していただけることになり、亀川の歴史を知ることができ、友人に感謝をしているところでした。

そのような時、今年の市内探訪が亀川と同様に歴史のある浜脇だったのです。会員になってこれまで市内探訪行事が夏の暑い時期だったので参加を渋ってきましたが、亀川の歴史を振り返ってみたこともありましたので思い切って参加をすることにいたしました。

当日の天気は、朝から運よく曇り空でしたが、やはり曇り空とはいえ、その後は暑くなりました。私自身は初参加であったことや浜脇の歴史への興味があったこと、そして日陰の多い散策コースであったことなどにより、暑さはさほど感じませんでした。

ガイド担当は、史談会会員の安藤康男さんと崇福寺（上ん寺）から合流しました小野 弘さんの二人でした。何よりも驚いたのは参加者が三八名もの多さです。

聞けば例年並みの参加人数ということでしたが、集合場所であり最初の見学先でもある東別府駅舎は参加者で一杯となりました。

見学場所はたくさん設定されており、約二時間をかけ見学いたしました。いずれの見学場所も記憶に残っているのですが、その中の五か所だけ紹介したいと思います。

今思えば、しっかりとした記憶・記録を残すためには写真を撮らなかつたことが非常に悔やまれます。

2 見学先の紹介

(1) 「浜脇」の由来

まずは、案内パンフにより知り得たのですが、「浜脇」という呼称の由来は、海岸線のいたるところから温泉が湧き出ていることから「浜湧」・「湧く浜」と呼ばれ、後に「浜脇」となったとのことです。至極、納得いたしました。

(2) 「浜脇高等温泉」「浜脇温泉」について

最初の紹介は、現在の湯都ピア浜脇に存在した「浜脇高等

温泉」「浜脇温泉」についてです。現存した当時の姿が写されている案内板（地図）により説明を受けました。

この二つの建物は背中合わせに造られていたとのことです。オランダ様式の鉄骨コンクリートの温泉建築で、スクラッチタイルを張り付けたモダンな外観は目を見張るものがあり、「浜脇高等温泉」の正面入口には大きく浜脇高等温泉と文字表示され、その下段には英文で「HAMAWAKI HOT SPRING BATHS FIRST CLASS」と標示されていて、そのところが九〇年前の昭和三年に建築されながらも、なんともモダンな感じをさせ、ふとノスタルジックな気持ちにさせられました。

この英語標記は、現在では当然ですが、当時としては近代的建築物であることを強調するために建設当初から標記されていたのか、やはりごく少数ではあるが外国人観光客のためなのかなど、いつどのような理由により施設名を日本語と英語の両方併記にしたのか今は疑問として残ってしまいました。

また、広場の地面には、白いタイルによって二つのとても大きな楕円形が作られています。それはなんと高等温泉の女湯と男湯の浴槽のあった場所とのことでした。その時思った

のですが、誰もが分かるように踏まれても擦り減らない金属製の説明版があればなと感じました。

さらに、「なべさんラーメン」の隣にとても大きなタイル張りの立派なアーチがありますが、これは旧「浜脇温泉」入口のアーチ部分を復元したものであるということも今回初めて知りました。

歴史ある浜脇においてこの建物の存在は、地域に溶け込み親しまれていたのか、それとも異彩を放ち孤高を持する建物なのか知り得ませんが、いずれにしても浜脇のシンボル、別府温泉の宝として存在価値を發揮していたことだろうと思います。

大再開発という大きな流れの中で、古いものから新しいものへと変化するとき、常に起きることは集団も一人人も大きな喜びとともにそれ以上の苦渋、苦悩、寂しさ、悲しさ、そして様々な人間模様があつたものと想像されます。この建物も時代の流れという大きな変化の中で残念ながら姿を消す運命だったのでしょうか。

(3) 「二幸荘」について

二つ目の紹介は、「二幸荘」です。

仮装宴会で有名であり、薬師祭りのメイン行事である花魁

道中の参加者の仮装をしていただけの旅館です。私も一二年前に男衆として花魁道中に参加したことがあり、当時の事が鮮明に思い出されました。いい経験でしたが、もう一度となれば……………。

その「二幸荘」の前の朝見川沿い駐車場が一段低くなっていますが、ここはかつて船着き場の入り江だったとのことです。よく姓名の姓は地名や地形などと関係し、私の藤内姓も地名から由来しているらしいですが、この入り江近くには入江姓の方がいらつしやるということで特に関心を持った次第でした。

(4) 「見立て細工」について

三つ目の紹介は、別府市指定無形民俗文化財の「見立て細工」についてです。

「見立て細工」といえば、小学校の頃の思い出があります。思い出すのは、亡き父に連れられて「水族館」で海亀の泳いでいる姿を見て、松原公園にあった「まるい食堂」で食事をして、夕方にはこの「見立て細工」を見て、とても楽しく、そしてとても賑やかだったなという思い出が、今や年齢のせいや夢・幻のような記憶となって残っています。

(5) 「長覚寺（下ん寺）」について

四つ目の紹介は、「長覚寺（下ん寺）」についてです。

現在の「長覚寺」は文政四年（一八二二）の火災後再建されたものですが、山門だけは焼け残ったものであるとのこと。その見上げる山門の大変立派なこと、めったに他では目にすることができないであろうと思われるほどどっしりとした山門です。参加者の会員の方からも見事な山門の造りについて解説をしていただきました。

境内には明治一七年建立の芭蕉の句碑があり「月かけや四門四宗も只ひとつ」とあります。これは、いくつにも分かれている宗派も、月の光の下では同じように照らされている。仏の道は、結局は一つであるという解釈だそうです。本当の建立の趣旨は知り得ませんが、古今東西争いの絶えない世の中を見ていると、芭蕉の多くの句の中からこの句を選んで建立したことは広義の意味において十分に良く理解できます。

(6) 「浜脇中学校」について

五つ目の紹介は、「浜脇中学校」からの眺めなどです。

校門のまわりにある整然とした立派な石垣は、それもそのはず大友氏の別荘「大友浜脇館」跡だったからです。大友氏は21代当主大友宗麟がここを拠点として策を練ったり、湯治に

来たりしたことを思えば、または芭蕉の句になりますが「夏草や兵どもが夢の跡」であります。

この浜脇中学校も平成三二年度末には、統廃合により廃校になる予定と聞いております。参加者の中から跡地はどのように活用されるのかなという話も出ていました。

この辺りからの眺めは、木々や竹で眺望を阻害されているところもありましたが、ここからの眺めは別府市街を一望できる貴重な所だと思えました。鉄輪には鶴見山を仰ぎ見て鉄輪を一望できる「湯けむり展望台」があります。戦後この浜脇中学校が開校される前は、この場所は「浜脇公園」だったそうです。そんなことも思ってみますと跡地は市民が利活用できるこのようなものもあつたらなと感じました。

3 おわりに

これまで、車で素通りするだけの浜脇でしたが、今回のようにガイドさんがいて、自らも探訪するという意識を持って散策してみると、実にたくさん見どころ、史跡があるのだなど実感しました。これも浜脇の長い歴史からしてみると、ほんの極々一部のことではありますが、貴重な市内探訪でありました。

また、私自身への戒めとなりますが、参加して分かったことですが、参加者としての守るべきマナーがあるということだと思います。一つは建物を見学する場合、現に住人がいる場合がありますので、大きな声での評価は慎むべきであり、特に負の評価の場合は厳に慎むべきであります。もう一つは、地域の方々の生活空間でありますから見学する際には道路を占有して通行などの邪魔にならないよう心掛けることなどが十分必要であろうと思えました。

終りに、ガイド担当の安藤会員には、ユーモアを交えた軽妙な語り口と終始笑顔で案内をしていただき、只々、頭の下がる思いでした。おかげで暑さも忘れてしまったほどの楽しい散策でした。安藤康男・小野弘両氏にはこれからも史談会に限らず多方面でのご活躍を祈念いたしまして、私の所感といたします。

市内史跡探訪に参加して（浜脇界限）

石川 学

（一）市内史跡見学会

東別府を九時三十分に出発。38名の会員が足取りも軽やかに散策した。私はガンの大病を患って今年の四月から家に閉じこもりでした。久しぶりに参加して身体と足に合わせて空元気で奮闘しました。松原の安藤康男さんの軽妙なガイド案内で東別府から薬師祭りの会場を病を忘れて常に先頭集団を歩く事を決めていた。風流見立て細工などを観て思いついた。

今の見立て細工は、別府発展に継ぐ細工でない・宇宙人の工作のようだ、昔は別府市内にふさわしい物、例えば乙原の滝、人力車、ラクテンチ風景等、本当の別府見立てであった、しかし、見立て細工が別府市の無形民俗文化財に指定され今日までその伝統を守り続けている浜脇の人々の努力を忘れてはなるまい。街並みの様々に建物の中には、客を歓迎する猫もいた。建物の中腹の小窓に可愛い猫が四、五匹寂しそうに私たちの姿を見ていた。その猫は客の肩叩きもしてくれるらしい、美しい街並みに猫まで歓迎してくれる。

又今の浜脇温泉を造り替えるとき、温泉がなくなり、堀田温泉からパイプで取り引いた工事、そのジョイントのマンホールのフタには新たに温泉マークと別府の別の字が切り込まれています。

大友館石垣等・崇福寺上ん寺・長寛寺下ん寺では昔は争いの反撃が多かったとか、これは何処の神仏も有ったようです。

（二）一寸休憩時に、河内元バス停から別府市街地を見降すと

目が覚めるような風景「ああ別府の都だ」

海、町、山は正に日本一の市街地で皆のカメラが動いた。次は宝満寺は「地獄の道から極楽道へと願が叶える」静かなお寺。

最後に小百合愛児園は幼い親なし子を育てる愛児園、卒園して社会に踏み出す子も多いが、一部は卒園しないまま親の後を継いだとか本当に残念だ。遊郭は親に責任があります：だらしない女ひと 我が子を見捨てる事が多かった様だ。しかしそれなりの事情があったのである。今は小百合愛児園も別府大学の寮になっている。

思い出しのまま書きました。今日私の歩きは満点、皆様方と神様に助けられました。次回もまたお会いしましょう。

猛暑よりも熱い郷土愛に参りました

猿^{えん} 渡^ど 久子

昨年8月21日、新米会員の私は別府市内の史跡探訪に初めて参加させていただきました。

サンドラッグ、4月に再オープンした別府市公会堂、別府公園、野口病院などなど、大変暑い中でしたが、先輩のみなさんのパワフルさ、知識の豊富さ、別府を愛する思いの深さに圧倒されつつ、ご一緒させていただきました。

「あの猛暑よりも熱い史談会のみなさんの郷土愛に参りました！」というのが私の感想です。

別府市公会堂のことは少しは知っていたつもりでしたが、改めて説明を受け見学すると、いつも使っている身近な建物にも新しい発見がたくさんあり、とても楽しく見せていただきました。いつも通るのに知らなかった田の湯の鍍絵、野口病院をめぐるエピソード、など大変興味深く教えていただきました。歩きながら「熊八翁の奥さんはどんな方だったのでしょうか？」と質問し教えていただくなど、素晴らしい先生方にこんな身近に教えていただけるなんてとても幸せことで

すね。

別府生まれ別府育ちの私。別府の温泉88か所をスタンブラーで巡る温泉道名人に認定いただき、別府のよさを実感しています。しかし、この史跡探訪に参加し、知らなかったことがたくさんあり、別府の奥深さを感じました。史談会に入っていただけでよかった、別府のことをもっと知りたがい、これらの史跡を残していくためにもみなさんとご一緒がなりたい、と思っています。

この日は、私の住む扇山の夏祭りの日でした。夏祭りの準備の合間を縫っての参加でしたが、参加できて本当に良かったです。

大変お世話になりました。今後ともいろいろ教えてくださいます。よろしく願います。

市内史跡見学会に参加して（浜脇界限）

吉 本 桂 三

八月二十七日九時、東別府駅に集合し出席をとり、本日のコース概要の説明を受け、出発に当り「停車場建設記念碑」、昭和九年に東別府駅と改稱の説明で三〇年位前の事を思い出しました。それは南町の御幸通りと朝見川橋に至る旧国道、旧南小前の側溝改修工事名が停車場線となっていた事です。因みに現日豊本線は、明治二八年四月九州鉄道として小倉―行事間、八月行橋間開業、明治三〇年九月豊州鉄道として行橋―長洲（柳ヶ浦）開業、明治三四年豊州鉄道と九州鉄道が合併し小倉―長洲間が九州鉄道となり、明治四〇年に国が買収し豊州線となり、明治四二年一〇月豊州本線と改称、一二月二一日柳ヶ浦―宇佐間、明治四三年一二月一五日宇佐―中山香間、明治四四年三月二二日中山香―日出、七月一六日日出―別府、一一月一日（別府）浜脇―大分間開業と云う事が国鉄史に残っています。扱て駅から丸井戸、枳屋を経て浜脇温泉広場にて今は無き、懐かしい浜脇高等温泉。

浜脇温泉の入口のモニュメントの壁面タイル高等温泉と両

温泉の浴槽のタイル標示を見学。昔ここで高等温泉は浴場一面床組され選挙の投票所に変身する工事を選挙の都度前日の夜完成。投票終了後撤去という忙しい仕事の回想を懐しみ、薬師堂に参詣。風流見立細工を鑑賞、再開筈域外の旧置屋の外観を眺め、浜脇歓楽街の一郭で山下彬磨氏の詠じた一節、「前に高崎後に鶴見由布は見えぬか温泉ゆのけむ煙り」、別府市街地から由布山を望見出来る処は此の地です。吉備山の上に握りこぶし拳程の姿を楼上から眺めたものでしょうかと云うのも、朝見橋の袂の二軒目西町に行く近道の小路、現在駐車場となっている所に軒先の低い酒店がありました。もう五〇年程も前の話ですがこの酒舗の方か否か記憶に定かではないが田能村竹田が立寄って飲酒していたとの話誰か資料があれば教えてください。竹田がこの浜脇で京都から来た舞妓雪姫（阿雪）と馴染みとなり別れを惜しみ彼女に小秦准しょうしんわいの書を贈ったと紀行文に云々又秋月桂堂氏に依って雨中到

浜脇口占とか小秦准の漢詩が紹介されています。朝見川河口に位置する浜脇は山家、河内浦田迫山田住吉佐尾の支流を集め横灘での天然の良港で出船、入船、湯治舟と賑わい、因みに江戸時代から芸妓、遊女体を抱へ商売とするものがいた事は酒、女、港、と多くの支流を集めた朝見川の水辺と水物

の縁の深さだろう。それが浜脇停車場を一時的にも乗降客一位にさせた由縁と解し浜脇再開発に際しこの地を映画村として残して欲しと願った昔が思い返されました。史跡見学誠に有難うございました。

● 雨中到「濱脇」口占

雨中^{うちゅう}濱脇^{はなわき}に到^{いた}る口占^{こうせん}

小杓斜^{しょうしゃく}通柳幾湾

小杓斜^{しょうしゃく}に通^{とほ}じて柳幾湾

軒扉臨^{けんひ}レ水半開^{みづなかひら}関

軒扉水^{けんひ}に臨^{のぞ}んで半^{なか}ば開^{かん}をひらく

誰知^{たれち}脂粉^{じふん}女兒^{によう}巷

誰^{たれ}か知^ちらん脂粉^{じふん}女兒^{によう}の巷^{ちやう}

卻看^{かへみ}倪家^{げいか}春雨^{かみり}山

卻^{かへ}つて看^みる倪家^{げいか}春雨^{かみり}の山^{やま}

① 倪雲林

元一明代の画家 人呼んで別名無錫高士 天真幽淡の趣を宗とし芸苑に名高し

● 小(秦淮) 〓 南京城内を流れる水の名 舞妓阿雪に贈った

書と妖艶と余生を金銀と芸に託し花柳界に生きる商正さゝ素晴らしい人生だな

羅列黄金十二釵

羅列^{られつ}す黄金十二釵^{じふにさい} 〓 かんざし

餘生託^{よせいたく}レ跡亦知^{あとち}レ佳

余生跡^{よせい}を託^{たく}して亦佳^ちなるを知る

春水緑波橋白板

春水^{はるみづ}に緑波橋^{りくはなはし}は白板^{はくばん} (秦淮に架かっ

ている橋の名)

或思此地似「秦淮

或^{ある}は思^{おも}う此^{こゝ}の地^ち秦淮^{しんわい}に似^にたるかと

これから別府の異称又江南、華清唐の太宗の築いた温泉宮玄

宗 〓 華清宮



平成 29 年
「流川の今と昔」を講演の小野弘氏